

(様式1)

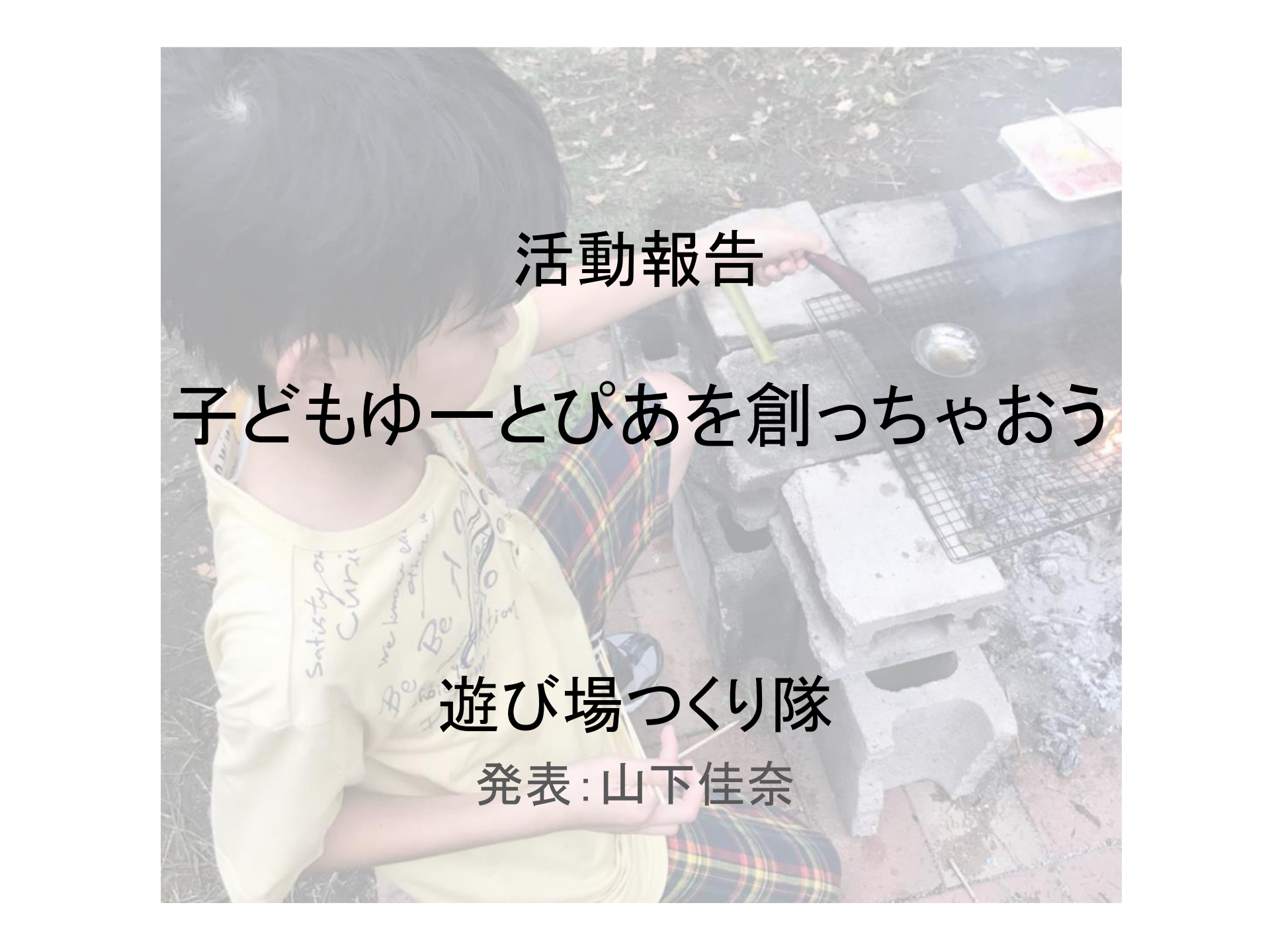
平成30年度 学生の自主的活動プロジェクト企画書

申請者	氏 名	杉本琢隼
	学 籍 番 号	
	学部・研究科名, 学年	

プロジェクトの名称	子どもゆーとぴあを創っちゃおう	申請金額
		199,074
プロジェクト団体名	遊び場づくり隊	
目的・理由	・ 島根県内の子どもに関わる活動をする方に参加を呼びかけ、本プロジェクトをきっかけに地域一丸となった遊び場展開を目指す。 ・ 全国で遊び場を創る活動をしている団体と交流し、遊び場の向上を図る。また、意見交換を行い、各団体の地域との関わりを知り、地域の遊び場について考える。	
活動概要	子どもの遊び場である公園であっても禁止事項を増やせねばならない現代で「社会」と遊び、地域の遊び場について話し合い、体験し、考える全国交流会を2018年9月に行う。 各団体の活動報告・意見交換会・体験型外遊びワークショップ	
主な連携先 (予定を含む。)	島根大学・島根県立大学 プレプレまつえキッズ、福井大学 遊房 NPO法人 森のほうかごがっこう、鳥取大学 ポレポレキッズ	
連携する内容	体験型外遊びワークショップ・意見交換会	
アドバイザー教員	所属部署	氏 名
	生物資源科学部	松崎 貴
期待される効果	・ 全国から集まった団体の活動報告や意見交換の場を設けることで広い視野から「子ども遊び場づくり」の意義を考えられる。 ・ 外遊びワークショップを行うことでスキルアップ向上の機会になる。 ・ 松江市島根町で行うため、島根町の方と関わりながら参加者に魅力を伝えられる。住民、県外者から見た松江市に必要なとされる遊び場について話し合う機会になる。	
成果の公表方法	・ 学生フォーラム報告書を作成し、報告の媒体とする。 ・ 2018年10月に親御さんや地域の方を呼び、学生・市民向けの「子どもゆーとぴあ報告会」を開き、報告と子どもの遊び場拡大の場を作る。	

- ※ 1)これまでに関連する取組みや実績が紹介された記事など、参考となる資料があれば添付すること。
2)備品等はカタログ、見積書を添付すること。

アドバイザー教員印	申請者印

A child with dark hair, wearing a yellow t-shirt with English text and plaid shorts, is sitting on the ground. They are using a wooden skewer to cook something on a metal grill over a fire. The grill is supported by concrete blocks. In the background, there is a white plate with colorful items and some greenery.

活動報告

子どもゆーとぴあを創っちゃおう

遊び場づくり隊

発表：山下佳奈

地域の子どもたちが 伸び伸びと遊ぶためには・・・？

遊び場をつくる上で

- ・地域の特色を掴む
- ・危機管理を学ぶ
- ・遊びのレパートリーを増やす

→スキルの向上、地域や他の団体と関わる機会が必要

活動の目的

- 本プロジェクトを、地域一丸となった遊び場展開を目指すきっかけにする。
- 全国で遊び場を創る活動をしている団体と交流し、遊び場の向上を図る。
- 意見交換を行うことで、各団体の地域との関わりを知り、地域の遊び場について考える。

活動スケジュール

2018年

9月15～16日 全国学生フォーラムinしまね

10月20日 学生フォーラムの報告会

~~~~~

11月25日 遊び場共同開催

2019年

1月17日 交流会in島根大学「こどもの会」

# 全国学生こどもフォーラム inしまね

第7回  
全国学生こどもフォーラム  
inしまね

～こどもゆーとぴあを  
創っちゃおう～

2018年9月15～16日 松江市島根町 小波集会所

## 実施内容

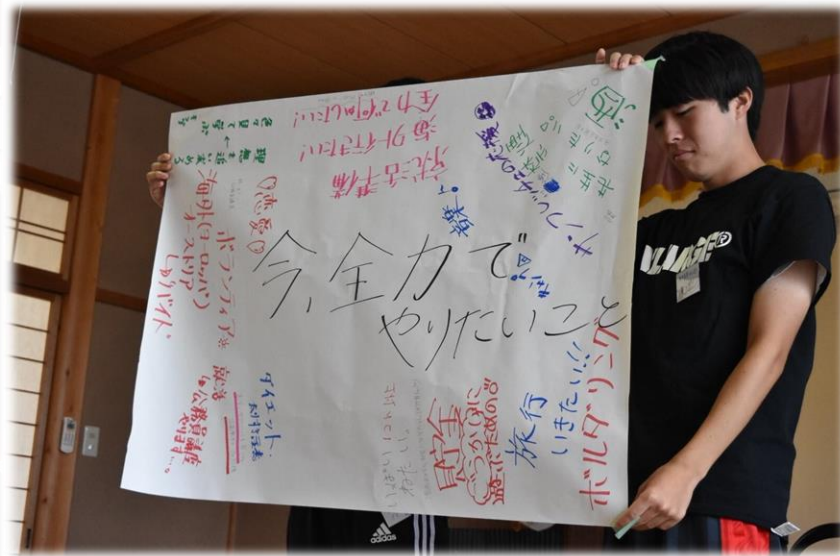
- ・こどもの頃の遊びを振り返る
- ・フィールドワーク(火・ロープ・ベーゴマ)
- ・懇親会
- ・民宿「なかよし」による朝食
- ・島根町の魅力発見(クイズ・探検・微小貝の観察)
- ・意見交換
- ・プレーパーク開園



# フィールドワーク



# 意見交換





# プレーパーク開園



# 参加団体

第7回  
全国学生こどもフォーラム  
inしまね

～こどもゆーとぴあを  
創っちゃおう～

- ・福井大学 Fukui Play-Studio遊房
- ・島根大学 プレプレまつえキッズ
- ・島根大学 学生
- ・雲南で遊び場をつくる会
- ・岡山県学生

参加者：計22名

# 参加者の声

第7回  
全国学生子どもフォーラム  
inしまね

～こどもゆーとぴあを  
創っちゃおう～

- ・子どもの遊び場をつくり、フィールドワークで学んだロープワークを生かしたい。
- ・ディスカッションから多くを学んだ。
- ・地域の方との対話が印象に残っている。
- ・海岸や星の綺麗さ、地域の魅力を感じた。
- ・今後もこのような機会が必要だ。

# 報告会



2018年10月20日 島根大学 大学会館2階 研修室

参加者: こどもに関わる活動に興味がある島根県の大学生、地域の方

## 目的

- ・遊び場をつくるために行っている活動の報告
- ・松江市の地域の方との交流の機会をつくる

## 実施内容

- ・報告書を配布
- ・活動報告と質疑応答
- ・グループワーク(テーマ「保護者の視点から」)

# 活動の成果

1. フィールドワークによりスキルが向上し、こどもたちとの遊びの幅が広がった
2. 島根町の魅力を感じ、伝えることができた
3. 地域と関わるための方法を共有することができた
4. 島根大学内のこどもに関わるサークルとの連携・交流の必要性を考えることができ、11月に遊び場を共同で開催、1月に交流会を開いた

# まとめと今後の展望

他団体の活動や小波の地域性を知ることで、  
自団体の活動を振り返り、今後の活動の原動力となる機会になった

ワークで体験し、多視点から話し合うことで、他団体との交流、  
地域との連携の必要性を学び、実行できた

## 今後の展望

- ・地域一丸となってこどもの遊びを見守ることを目指す。
- ・積極性を持って地域に関わっていく。
- ・他の団体との交流を通じて視野を広く持つ。

# 最後に

本プロジェクトにご支援・ご協力を頂きました  
小波地区の皆様、  
プロジェクトS関係者様に  
感謝申し上げます。



ご静聴ありがとうございました。